

# 交通ルールを守りましょう

どうろをわたるときはいちどとまって  
みぎ・ひだりをたしかめましょう。

がっこうのいきかえりはきまったつうがくろを  
とおりましょう。

しんごうきをよくみてね。  
あおになったらみぎ、ひだりをかくにんしてからわたりましょう。

おうだんほどうをわたるときは、てをあげてくるまが  
きていないことをかくにんしてすばやくわたりましょう。

どうろをあるくときは  
よこにひろがらないようにみぎがわをあるきましょう。

## 第77回 小・中学生交通安全 図画・作文コンクール 優秀作品集

### 私たちの交通安全



一般財団法人 福岡県交通安全協会  
博多区千代1丁目25-15 TEL 092-641-8880(代)  
ホームページアドレス <http://www.fukuoka-ankyo.jp>



一般財団法人  
福岡県交通安全協会  
Fukuoka Prefecture Traffic Safety Association

# はしがき

一般財団法人 福岡県交通安全協会  
事務理事 戸谷 弘一



当協会は、安全で安心な交通社会の実現に向けて、交通事故をなくす福岡県民運動本部や福岡県警察をはじめとする交通関係機関・団体と緊密に連携して、四季の交通安全運動など、各種の交通安全活動に取り組んでいます。

また、幼稚園や小・中学校に対する交通教室などを開催して、交通安全意識の高揚及び啓発活動に取り組んでいます。なかでも、「小・中学生交通安全図画・作文コンクール」は、昭和24年に第1回が開催され、今年で77回目を迎える伝統あるコンクールです。

今回のコンクールでは、県内の小・中学生から図画2,229点、作文194点の応募をいただき、厳正な審査の結果、入賞作品75点が選ばれました。

本文集では、図画部門での最優秀3点及び優秀6点、作文部門での最優秀2点及び優秀5点、飲酒運転撲滅特別賞2点、合計18点の作品を紹介しています。

福岡県内では、いまだに多くの子供達が交通事故にあっています。

当協会では、日本の将来を担う子供達が交通事故にあわないよう、家庭、学校、地域及び関係機関・団体と連携して、交通安全思想の普及・啓発に取り組んで参ります。

結びに、本文集が、子供達の交通事故防止に少しでも役にたてれば幸いです。

皆様のご支援・ご協力を宜しくお願いします。

令和7年11月



## 小学生低学年の部

苅田町立片島小学校 2年

みょうじん たける  
明神 尊



### 「手をあげてわたろう」

おうだんほどうを安全に渡れるように  
ポスターをかきました。



# 小学生高学年の部

明治学園小学校 6年 <sup>のうみ</sup> 能美 にな



## 「車も自転車も NO 飲酒運転」

車だけでなく自転車も飲酒運転になることを知ってほしい。  
お酒を飲まない人も、110に通報することで飲酒運転撲滅の  
力になれることも知ってほしいと思った。



# 中学生の部

太宰府市立学業院中学校 2年 <sup>たかひら</sup> 高比良 <sup>あゆ</sup> 歩



## 「お酒を握った手でハンドルを握らないで」

同じ手がお酒とハンドルを握っているという構図にこだわりました。  
お酒を飲んでよっている男性をビールに、  
車のバックミラーにも顔を反射させて、ビフォーアフターを描きました。



### 小学1年生の部

田川市立大浦小学校

おおた あやは  
**太田 彩羽**

「おうだんほどうをわたります」  
じのいろをがんばってぬりました。



### 小学4年生の部

苅田町立与原小学校

よしおか たいき  
**吉岡 大義**



### 小学3年生の部

豊前市立角田小学校

こもり ともき  
**古森 智樹**



### 小学5年生の部

大川市立道海島小学校

のりどみ かなめ  
**乗富 哉馬**

「みんなでしようヘルメット」  
みんながヘルメットをかぶってじこをなくしたい  
という思いで絵にはみんながヘルメットを  
かぶっている絵にしました。



優秀賞

## 中学1年生の部

太宰府市立学業院中学校

まつのした かな  
松ノ下 夏那

「ヘルメットは頭の命綱」

人のはだが自然になるようにした。  
車がぶつかる勢い分かるように  
やくどう感をつけた。



## 福岡県交通安全協会の主な活動

- 1 こども・高齢者の交通安全教室
- 2 交通安全フォトコンテスト、小・中学生交通安全図画・作文コンクール
- 3 交通安全こども自転車大会
- 4 反射材(タスキ等)配布  
ランドセルカバー配布
- 5 交通安全ふくおか(季刊紙)の発行  
広報車(青パト)による巡回広報
- 6 新聞・ラジオ・ポスター等による交通安全啓発
- 7 優良運転者等の表彰
- 8 飲酒運転撲滅推進キャンペーン・イベントの実施

優秀賞

## 中学3年生の部

北九州市立高須中学校

たなか ここな  
田中 心菜

「交通安全ポスター」

時間をかけて丁寧に仕上げました。



守ろう  
交通ルール・マナー



自転車に乗る時は  
命を守るヘルメット



飲酒運転を見かけたら  
110番通報しよう

交通安全協会は、皆様のご支援と  
ご協力を得て活動しています。



一般財団法人  
福岡県交通安全協会  
Fukuoka Prefecture Traffic Safety Association

ホームページ





## 小学生高学年の部

### 正しく使おう命綱

明治学園小学校 6年

のうみ  
能美 にな

この春、我が家に新しい車がやってきた。以前にはなかった機能がたくさんついている。なんと、発車時にシートベルトを着用していなければ、警告音が鳴る機能までついていた。締め忘れやさしこみ不十分などというヒューマンエラーを防ぐ、すごいシステムだ。

それからわずか数日後、新聞で衝撃的な記事を見つけた。シートベルトが子供の交通事故の死因に関係する場合があるというのだ。シートベルトこそが命綱だと信じていた私は、それが凶器になり得ることに驚いた。記事によると、ベルトの『着用位置』が間違っていると腹部やけい部が圧迫され、死亡につながる可能性があるらしい。正しい着用位置は骨盤と鎖骨。おなかや首にかかるとはいけない。子供は特に注意が必要だ。座る位置が低く、通常の座席ではベルトの位置がずれてしまうのだ。そのためチャイルドシートなどで座面を高くし、ベルトが首やおなかに食い込むのを

防ぐ必要がある。チャイルドシートが義務付けられているのは六歳未満だが、適切な身長になるまではジュニアシートなどの利用が推奨されている。小柄な私も利用者の一人だ。

シートベルトは、万が一交通事故にあった時に私達の命を守ってくれる。二〇二〇年以降に造られた車には、シートベルトリマインダーの搭載が義務化された。我が家の車にもある、発車時に後部座席を含め乗員全員がベルトをしていなければ警告音が鳴る、あのシステムだ。着用しているか否かは機械が確認してくれる。しかし、シートベルトはただ着用するだけでは命を守れない。正しく着用しているかは、自分自身での確認が必要だ。

シートベルトは正しく着用してこそ命綱になる。早く大人の仲間入りをしたくてジュニアシートを外したかった私も、もうしばらく後部座席の特等席を使おうと思う。

私を守る命綱を、正しく利用するために。

### あなたもLINEで「交通安全」を送ろう!!

安全運転  
「しぐまるLINEスタンプ」で交通安全  
しぐまるスタンプ 1セット(16個)  
120円(税込)  
LINEコイン/50コイン  
LINEストアから「しぐまる」で検索!!



## 中学生の部

### 安全な交通社会

北九州市立二島中学校 1年

おおい  
ひなこ  
大井 日菜子

私は、身近な自転車こそ安全であるべきだと強く願っています。近年、自転車に関する交通ルールの改正が進んでおり、特に反則金制度の導入と酒気帯び運転に対する罰則の新設には心から賛成しています。これらの改正は、より安全な交通社会を築くには不可欠だと考えるからです。自転車は多くの人が日常的に利用しますが、一歩間違えば重大な事故につながる危険性もあります。ルールを守らない一部の利用者のせいで、真面目に交通ルールを守る人々までが危険な目にあうこともあります。私自身、道を歩いているときにヒヤリとした経験があります。

それは先日、夜道を歩いていた時のことです。交差点を渡ろうとしたその時、突然、猛スピードで自転車が飛び出してきました。幸い、私がすぐに立ち止まったため接触は避けられましたが、あと一歩違っていれば、間違いなく突っていました。その自転車は無灯火だったので私は直前までその存在に気づけませんでした。おどろいた私は、しばらく動くことができませんでした。この経験は私にとって大きなものでした。もちろん、自転車の運転者が交通ルールを守らなかったのが最大の原因ですが、私自身も、夜間に外出する時には、もう少し明るい色の服を選ぶことや、反射材などを身につけていればよかったと反省しました。歩行者であっても、自分の身を守るための対策をしなければいけないと感じました。

このような経験があるからこそ、私は自転車に対する厳しいルールが必要だと感じています。反則金制度は、これまで注意や指導で終わることが多かった悪質な違反に対し、より明確な罰則を設けることで、ルールを守ることを意識する効果が期待できると思います。信号無視や一時不停止といった危険な行動が減れば、私のようなヒヤリとする経験をする人も減ると考えます。

そして、酒気帯び運転に対する刑事罰の新設は、飲酒運転の危険性を改めて人に問い、その根絶を目指す上で非常に重要な一歩です。自転車であっても酒気を帯びた状態での運転は、判断能力をととも低下させ、重大な事故を引き起こす可能性をもっています。身近な乗り物だからこそ、「少しだけなら大丈夫だろう」という安易な気持ちで、取り返しのつかない事態を招くことを、誰もが意識することが大切だと思います。

自転車は、環境にも優しく、健康にも良い素晴らしい移動手段です。誰もが安心して利用できる交通社会を実現するためには、私たち一人ひとりが交通ルールを守り、お互いを思いやる気持ちを持つことが何よりも大切です。今回の法改正が、自転車を取り巻く環境をより安全なものへと変え、交通事故のない未来へとつながることを心から願っています。私も反射材を身に付けるなど、自分ができることから交通安全への第一歩を始めていきたいです。



## 小学3年の部

さあ、顔をあげよう。

学校法人鎮西敬愛学園 敬愛小学校

しらいし  
白石 あさひ

学校の帰りに駅でポスターを見つけました。歩きスマホをやめようというよびかけでした。そういえば、わたしも歩きスマホはあぶないと思った出来事がありました。

家ぞくで旅行した時、人が多い広場を歩きました。するとむこうからおじさんがこっちにむかって歩いてきました。広い所だったので、よけられると思って歩いていましたが、近くまで来ると、わたしの頭とおじさんのおなかがあぶつかりそうになりました。「すみません。」

わたしがよけたので、なんとかあぶつからずにすみません。おじさんはわたしに気づかずに、何も言わずスマホを見ながら歩いて行ってしまいました。

スマホばかり見て歩くと、通行のじゃまになったり、ぶつかったりころんでけがをしてしまうおそれがあります。ほかの人をまきこんでしまうかもしれません。スマホばかり

りに気をとられて、まわりを気にすることができなくなるからです。海外では歩きスマホはばっ金をとられることもあるそうです。でもスマホだけではありません。友だちとの話にむ中になったり、イヤホンやヘッドホンで音楽を聞いたりしていても、まわりのきけんに気付くことができず、交通事こにつながるかもしれません。

横だん歩道ではわたしはいつも手をあげてわたっています。交通事こをへらすためには、手だけではなく、顔もあげて歩くひつようがあることが分かりました。

交通事こでかなしい気持ちになる人が少しでもへるよう、まわりに気を付けながら、これからは、顔もあげて歩こうと思います。

駅で出会った、すばらしいポスターのおかげで、たくさんの人のおかげで、すくわれると思えました。



## 中学1年の部

安全な自動車社会を目指して

北九州市立二島中学校

うどう かおる  
有働 薫

交通事故の無い安全な社会を目指すには、歩行者と運転手、それぞれが正しい知識をもつことと、思いやりの気持ちをもつことが大切だと思う。このような考え方をもちようになったのには、小学生の時の経験があるからだ。

私は、毎朝信号無視をする危険な歩行者に会っていた。その歩行者は、信号が赤だったとしても、車が通ってなければ渡って行ってしまうのだ。もちろん朝なので車も多く、登校中の小学生もいる。私は「下級生が真似をしてしまったら大変だ。」と思いつつも、その歩行者に声をかけることができずに小学校を卒業してしまった。今でも、その歩行者と周りの小学生がとても心配だ。

私は、このような危険な行動をとる歩行者と車が事故を起こした場合、どちらが悪くなるのかという点が気になり、調べてみることにした。ネットのページによると、このような事故の場合、歩行者は「交通弱者」であるため、車の運転手の方が悪いとされるそう。危険な行動をとったのは歩行者であるのに、安全運転をしていた運転手が悪いとされることに、私は違和感を感じた。また、このような事実をその歩行者が知った上で危険な行動をしたのであれば、その人には運転手への思いやりと、危険の予測力が足りていないことになる。やはりおかしいと感じる。歩行者の「自分なら大丈夫」という気持ちや、自分勝手な考え、

危険の予測力の無さから、事故が起きてしまうことがあるということについて、改めて考えさせられた。

一方、運転手についても同じことが言える場合がある。最近のニュースでよく目にする交通事故の話では、高齢ドライバーによる運転ミスや、飲酒運転、感情にまかせた運転による人身事故が多い。運転免許証は、自動車学校で交通ルールを学び、試験を受けて合格した人がもらえるものであると母から聞いた。そのような人々がなぜ事故を起こしてしまうのか理解できないが、やはり「自分なら大丈夫」という気持ちや、自分勝手な気持ちによるものではないかと思う。車を運転するということは、人の命を守り運ぶものであるという責任感が必要だと思う。大人でも免許証を持っている人々は、もう一度交通ルールを確認し、安全運転を意識する必要があるのではないかと考えた。

このように、交通事故を無くすためには、歩行者と運転手、それぞれの正しい知識と思いやりの気持ちが大切だと考える。自動車のある生活が当たり前になっている現在、すべての人が交通安全について真剣に考え、実行していくことで、安全で楽しい社会ができていく。そのためにも、学校や会社、そして家庭の中でも交通安全について話し合うような機会をもうけたり、活動したりする必要があると思う。



## 小学3年の部

「ちょっとだけ」その考えが命とり

学校法人飯塚学園 飯塚日新館小学校

おか まな  
岡 愛菜

私は、ながらスマホをしている人を何回も見ることがあります。ながらスマホをしてはいけない理由は「歩行中運転中のじこがふえる。」「周りの人の迷わくなる。」「とてもきけん。」「大きなじこにつながる。」からです。自分では、周りを見ているつもりでも、じっさいには、注意がおろそかになって、じこにつながります。

ニュースでも「ながらスマホがげんいんでじこが起きた。」というほう道を何度も見ました。べんりなスマホですが、使い方をまちがえると命をうばう事もあります。たとえば、2024年には、自転車にのりながらスマホをつかっていた人が、136件死・重いけがのじこをおこしていました。そのうち、31件は人がなくなっています。また、歩きスマホをしていた人は、2025年2月までの5年で143人もきゅう急車で運ばれ、その年だけで29人がけがをして病院に行ったというデータもあります。

そこでスマホのべんりさにたよりすぎず、周りへの注意や安全を第一に考えることが大切です。「スマホを使う時は、立ち止まる。」「運転中はぜったいに見ない。」というルールを決めることが、安心して安全な生活につながります。

スマホは生活をゆたかにしてくれる道具です。自分では「ちょっとだけ。」と書いていても、その行動が自分や他の人の命をうばってしまうこともあるのです。だからこそ、正しく使い安全を守ることをわすれてはいけないと思えます。命は、一つしかありません。スマホよりも、周りの人の命や自分の安全の方が大切です。一人一人が正しくスマホを使うことによって、じこをなくすことができると思います。わたしは、そんなじこのないすばらしい世界がいいです。



## 中学2年の部

歩きスマホの危険

大刀洗町立大刀洗中学校

こが せり  
古賀 静織

東京へ行ったときのことで。夜、スクランブル交差点を歩いていると、多くの人が歩きスマホをしていることに気がつきました。また、すれ違い際に何度か肩があぶつかりましたが、あぶつかったほとんどの人はスマホを見ていて、前を見ていない状況でした。

歩きスマホの危険性について調べてみると、東京消防庁管内では令和二年から六年までの過去五年間で、歩きながら・自転車に乗りながら、スマホ等の画面を見る・操作する、いわゆる歩きスマホ等に関わる事故により、百四十三人が救急搬送されています。救急搬送には至らない数も数えると、相当な数になるだろうと思います。また、歩きスマホだけでこんなにも影響がでる、事故につながるということに改めて危険性を感じました。

多くの事故へとつながってしまうのに、どうして歩きスマホはやめられないのでしょうか。スマホは確かに便利で、

私もいろいろなことを調べたり、音楽を聴いたりします。無意識のうちに開いてしまうこともあります。社会人になると仕事の確認をスマホでしている人もいます。だから、ルールを作ってもなかなか歩きスマホはなくなるのだと思います。

けれどもやはり、歩きスマホは危険です。小さな画面を見ていると視界が狭くなってしまい、さらにイヤホンまでしていると物音を認識することも困難になります。近くに車が通っていることにも気づかずにハッとした経験がある人は少なくないと思います。大勢の人が交差する場所や道路の近くなどでスマホを使う場合は、道端でしっかり止まって使うこと、家族や友人が思わず歩きスマホをしていたら、危険を教えることが大切で必要なことだと思います。事故にあわないように、怪我をしない、させないように、歩きスマホは絶対しません。



## 中学3年の部 命を守るルール

北九州市立二島中学校

はない  
うた  
花井 詩

世の中には、車や自転車などを交通手段とする人が多いです。さらに、より便利に、安全にと、電動キックボードや自動パイロットなどの開発が進められています。我々の生活が豊かになると同時に、事故や見直すべき交通ルールが増えていることもまた事実です。

「環境に優しく、健康にもいい」として利用される自転車。そんな自転車にも、問題点や課題点があると思います。例えば、「ルールを知らずに利用している」という点です。最近では自転車の交通違反に対する罰則が厳しくなっており、意識し始める人も増えていますが、やはり、「歩道は走っていいのか」という点や「車道は危ないから走らない」という混乱が多く、ルールを知らずに利用している人は少なくないようです。二つ目は、「マナー」についてです。街では、スマホを見ながら、またイヤホンを装着しながら、といった「ながら運転」や無灯火や信号無視などの危険行為が頻繁に見られます。この問題は本当に深刻で、二〇二四年の上半期の「ながら運転」による死亡・重傷事故は過去最多となっており、いち早く解決しなくてはならない事態となっています。三つ目は、「免許や講習がない」という点です。自転車は誰でもすぐに手軽に乗れるとこ

ろがいいところなのですが、その反面、ルールやマナーの考え方への差が大きいように感じます。

これらの問題点を解決するには、試験または講習制度の実施、学生には教育の徹底が必要だと考えました。これらの問題点は、「ルールを知らない」という問題から引き起こされるものです。ならば、自動車のように「人を殺めることができちゃうもの」として人々に自転車という乗り物を重く受けとめてもらう必要があるのではないかと思います。

交通ルールとは、すべての人の安全と秩序を保つためのとても重要なものです。ルールがないだけで事故のリスクは大変高まります。そんな交通ルールには、今回あげた「自転車のルール」以外にも、見直す点があると思います。高齢者ドライバーに関する規則や、「ながら運転」の取りしまりの甘さなど、交通ルールが今なお発展していく時代に追いついていない場面もあるのではないのでしょうか。人々の豊かで安心安全な暮らしのために、交通ルールの見直しや、人々の「お互いを守るため」という意識をもっとあげる必要があると思いました。

## 第38回 交通安全フォトコンテスト優秀作品

【最優秀賞】



『手をつなぐ手をあげる』  
うきは市 齊藤 毅成

【特別賞】



『安全運転で桜みにいこ!!』  
田川郡 河野 知憲

【優秀賞】



『通学路』  
北九州市 善上 修平



『おじさん おはよう!! 今日も仲良く安心して渡れます。』  
直方市 上川 光明

### CMのQRコード



ヒーロー編



漫才編



歌って募集編



安協PR動画

### 会員になると

協賛店の情報



#### ●交通安全協会の主な活動

- ★ こども・高齢者の交通教室
- ★ 各種交通安全イベントの実施
- ★ 各種交通安全啓発活動

#### ●会員になると

- ★ チャイルドシート等無料貸出
- ★ 更新をメールで2回お知らせ
- ★ 約6,000店で割引等が利用可 etc

**家族、友人、孫のために! 年間400円**

